



2017/18 シーズンのインフルエンザウイルス検出状況について

2017/18 シーズンの埼玉県におけるインフルエンザは、感染症発生動向調査に基づく定点当たり患者報告数が、2017 年第 46 週（11 月 13 日～19 日）に 1.00 を超えて流行期に入りました。今回は、2017/18 シーズン（今シーズン）前半に県域（政令市を除く市町村）のインフルエンザ指定提出機関で採取された検体の検査結果を報告します。

2017 年第 36 週から 52 週の期間に 15 保健所管内から計 223 検体が搬入され、206 検体から AH1pdm09 が 98 件、AH3 亜型が 17 件、B 型が 90 件（山形系統[Byam]89 件、ビクトリア系統[Bvic]1 件）、A 型亜型未確定のウイルスが 1 件検出されました。今シーズンのインフルエンザの主たる流行ウイルスは AH1pdm09 と B 型であり、AH3 亜型の検出数は少なくなっています。

これまでの主たる流行ウイルスをみると、2014/15 シーズン及び 2016/17 シーズンが AH3 亜型、2015/16 シーズンが AH1pdm09 と 2 つの A 亜型が交互に主流となっており、B 型は年明け以降に流行する傾向がありました。

今シーズンは、シーズン初めから B 型ウイルスが多く検出されており、また、検出されている B 型ウイルスは、ほぼ Byam で占められていることが大きな特徴になっています。（図 1、2）

インフルエンザウイルスを検出した患者の年齢階級は、AH1pdm09 では、5-9 歳が最も多く、次いで 10-14 歳、5 歳未満の順に分布しており、20 歳未満が 77% を占めました。AH3 亜型は 50 歳代を除く各階級に分布していました。Byam は AH1pdm09 と同様の分布傾向であり、20 歳未満が 87% を占めました。Bvic は 5 歳未満からの検出でした（図 3）

今シーズンの週別、患者年齢階級別のインフルエンザウイルス型別検出数等の詳細は県感染症情報センターのホームページ(<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/srv-flu.html>)で、最新情報を毎週、お知らせしているところですのでご覧ください。

指定提出機関の先生方には、引き続き検体採取への協力をお願いします。

インフルエンザに関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症疫学センターのホームページ(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>)でご覧になれます。

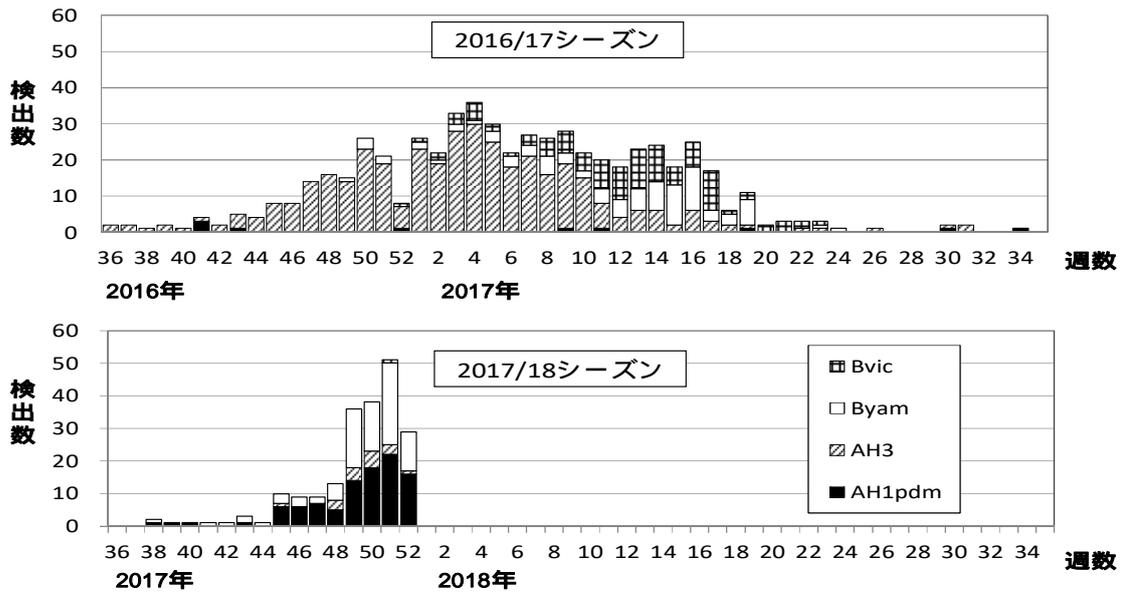


図1 週別インフルエンザウイルス検出状況

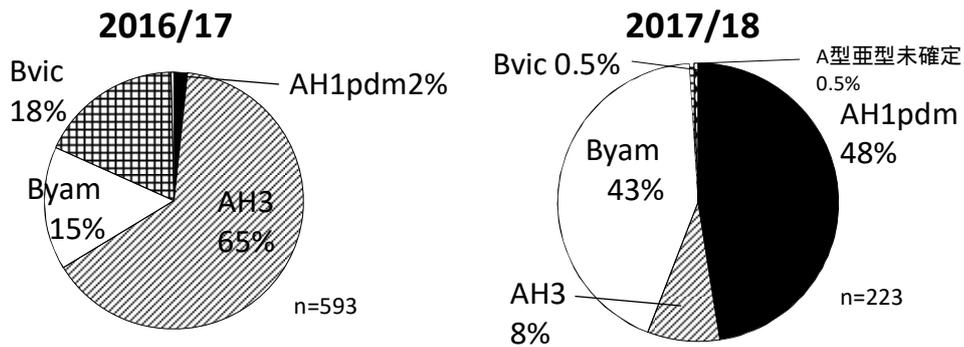


図2 2016/17及び2017/18シーズンの県域におけるインフルエンザウイルス型別実施状況
(2016/17シーズンは2016年第36週から第52週及び2017年第1週から第36週、
2017/18シーズンは2017年第36週から第52週まで。2018年1月22日集計)

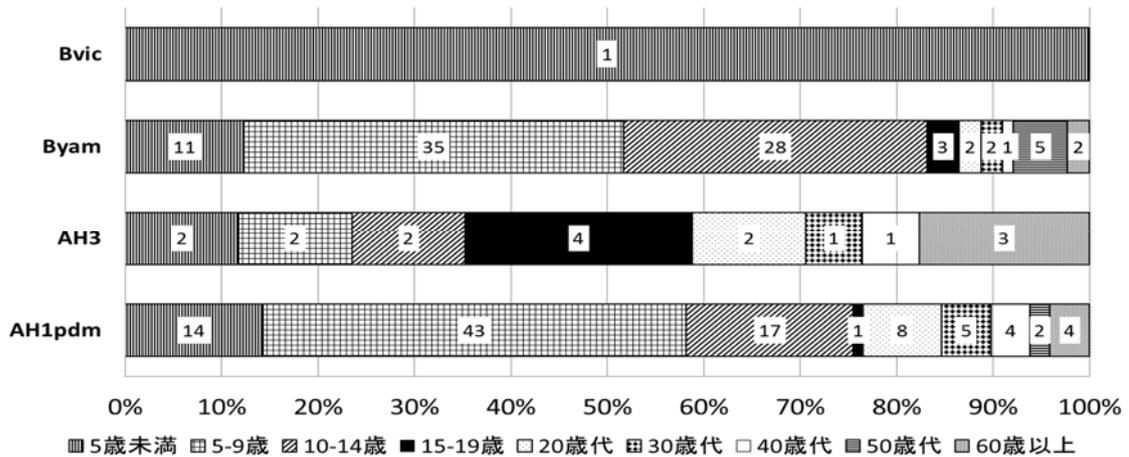


図3 インフルエンザウイルスを検出した患者の年齢階級分布(2017/18シーズン)
(白抜き中の数字は、ウイルス検出数)